

【四月の言葉（令和四年）】

くしや

もしも愚者が

自ら「愚」であると考えれば

けんじや

すなわち賢者である。

お粗末な内面を覆い隠しつつ、外見では立派に振舞って見せようとする点において、多くの人間が一流の役者なのかもしれません。世間の評価や他人の視線を気にする窮屈さを感じ、そろそろ演じることに疲れた人も多いはずです。

自己の愚かな内面と真正面から向き合えたならば、あなたは賢者であると釈尊（お釈迦様）は説いています。仏教での賢者とは、知識や教養を持った者ではなく、あらゆる煩惱を克服して欲望や怒りの感情に振り回されず、「私の……」「自分の……」という執着を離れて、無我の境地に達した覚者（真実に目覚めた者）のことです。残念ながら、そのような賢者のゴールにたどり着けそうもない私たちですが、尽きることのない煩惱や私利私欲への執着から離れられない悲しき『自己』に気づくことで、賢者への道が開かれるのです。

